まえがき

AI の翻訳ツールなどの発達によって，文法的に正しい英文を書くことは比較的容易になってきた．そのため，論文を書く際には，いきなり英語で書き始めるよりも，日本語で下書きして，それを翻訳するという方法が益々有効になりつつある．とはいえ，複雑な日本語は正しく英訳されないし，ましてや，論文らしい英語表現にはならないことが多い．一方で，論文でよく使われる英語表現というものは確実に存在しており，中には定番の決まり文句と言えるものもたくさんある．このような論文執筆時に感じるジレンマを解決するためには，論文でどのような英語表現が使われるのかを理解した上で，翻訳ツールを利用することが必要となる．それがなければ，日本語から翻訳された英文が適切かどうかを判断できないからだ．論文で使われる英語表現を理解した上で，日本語の下書きを作れれば，翻訳も適切に行われる可能性が高くなるはずだ．もちろん，日本語からの翻訳では出てきにくい決まり文句は，最初から英語で書けばよいだろう．本書を執筆した理由は，論文での定番の英語表現を効率よく学ぶための教材，あるいは，書きたいことに対応する英語表現を見つけるためのツールとして活用していただきたいというものである．

論文を執筆する際には，どこにどのようなことを書くのかを理解しておくことが必要である．生命科学論文は，Introduction，Materials & Methods，Results，Discussion の 4 つの Section で構成されることが多い．従って，「どこにどのようなことを書くのか」とは，この枠組みの中をどのようにまとめるのかということである．本書では，各 Section での流れの枠組みを，Move と Step という名称で解説する．まずは，概略編の「論文の型を学ぼう—各セクションの書き方のポイント—」を読んで，論文でのストーリー展開の型をしっかり理解しよう．

このような型に加えて，各々の Move や Step でどのような英語表現を使うのかを知ることも必要である．Move ／ Step ごとの英語表現は，既に拙著『ライフサイエンストップジャーナル 300 編の「型」で書く英語論文～言語学的 Move 分析が明かしたすぐに使える定型表現とストーリー展開のつくり方』に詳しくまとめてある．しかし，実際に論文を書く際に考えることは，「このようなことを書きたい」という直感であることが多く，必ずしも論文全体の流れに沿って考えているわけで

はない．英語表現を探すために，直感を Section → Move → Step の流れに組み立て直すことは，少々面倒な作業であった．そこで本書では，「このようなことを書きたい」と思ったときに即座に活用できるように，英語論文での頻出重要表現をまとめ直した．直感的な分類を採用してあるので，容易に英語表現（キーフレーズ）を探すことができるはずだ．また，単語（キーワード）ごとにまとめてあるので，索引などを利用して重要単語の使い方を調べることもできる．

本書を使って学習する際には，まずは，概略編の「頻出重要コロケーションパターン」の表を一通り確認しておこう．また本書には，これらを学ぶための並べ替え練習問題があるので，これにトライしてみよう．これらの解答は，本書で示す重要表現の暗唱例文としても活用できる．前述した表と合わせて，論文における頻出表現を習得するとよいだろう．

2024 年 11 月

河本　健

石井達也